

平成 29 年度第 2 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 29 年 5 月 25 日（火） 18：30 ～ 20：15

【場 所】 望来コミュニティセンター みなくる

【出席者】 8 名（15 人中）

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	佐 藤 勝 彦	○	委員	小 山 玲 子	○	委員	中 井 健 太	
副会長	渡 邊 教 円	○	委員	今 光 江		委員	平 賀 敏 和	
委員	大 内 さつき	○	委員	坂 本 悌 生		委員	前 田 和 也	
委員	大 黒 利 勝		委員	柴 田 志寿子	○	委員	築 田 敏 彦	○
委員	小笠原 英 史	○	委員	柴 田 肇	○	委員	吉 田 美 香	

※正副会長を除き、あいうえお順

支 所 ～ 西田支所長・田村市民福祉課長（兼生涯学習課長）・相原主幹・今野協力隊員・野呂協力隊員

事務局 ～ 高田地域振興課長・今田主査・川村主査・中村主任

（地域振興課）

【傍聴者】 1 名

【次 第】 1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 協議事項

(1) 自治会、地域振興団体の活動報告と今後の取り組みについて

4. 報告事項

(1) 第 7 期地域協議会の委員選考について

5. その他

(1) 『地域づくりキックオフフォーラム』のご案内

1. 開会

【（厚）地域振興課 高田課長】

お晩でございます。

開会の前に、平賀委員、前田委員から欠席の連絡を受けておりますので、報告させていただきます。

それでは平成 29 年第 2 回地域協議会を開会いたします。会長、ご挨拶よろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

【佐藤会長】

お晩でございます。

今日は、厚田地区の各団体の方と自治会の代表の方にも参加いただきました。

地域協議会は今年で 12 年目になります。自治区になってから厚田区のこととは地域で皆さんと一緒にやっていこうということで、地域協議会が出来たのですが、地域協議会と住民の方とはまだまだ何か遠い感覚なんですね。ですから、地域協議会で検討してこういうことをやろうとなってもなかなか住民の実感までは届い

ていない。そこで、各団体や自治会の代表の方に集まっていたきまして、厚田区の街づくりに一人でも多くの人たちに参加して頂き、より一層の地域総ぐるみの地域活性化に向けてこれからやっていこうと、いうことで今日お集まりいただきました。

お集まり頂いた方々においては、お忙しいところご参加いただきまして本当にありがとうございます。
それでは早速ですが、議事に入る前にリラックスタイムに入っていきたいと思います。

3. 協議事項

【佐藤会長】

それでは協議事項に移らせて頂きます。
これは資料がありますので、事務局より説明願います。

自治会、地域振興団体の活動報告と今後の取り組みについて

【(厚)地域振興課 今田主査】

地域振興課の今田でございます。よろしくお願いいたします。

まずお配りした資料の確認をさせていただきたいと思います。次第、石狩市厚田区地域協議会 A4 の綴ったものの中に本日の各地域振興団体さんの平成 28 年度の活動報告がありまして、活動報告、そして各団体さんの事業実績というものが、ページで言いますと 14 ページから 16 ページ、最後の 3 ページにですね、記載しております。それと、先ほどご案内させて頂いた冊子「厚田の絆 10 年」。これも、地域協議会 10 周年を迎えるにあたってそれまでの活動の記録を冊子にしたものということで、今日はこちらも併せて各団体さんの活動のご報告を聞いていただければと思います。それと最後に A3 裏表地域活動団体活動の様子ということで、お配りしております。

【佐藤会長】

それでは資料の方よろしいですね。
それでは今説明があった通り、各団体の活動報告をしていただこうと思います。
それでは厚田区コミュニティゆめ倶楽部 河合会長、よろしくお願いいたします。

【厚田区コミュニティゆめ倶楽部 会長 河合 保郎さん】

厚田区コミュニティゆめ倶楽部の活動報告をさせていただきます。ゆめ倶楽部の河合です。
私から 28 年度の活動報告と 29 年度の活動内容についてお話いたします。

はじめに、28 年度の活動についてですが『厚田が大好き』と実感できるような特色ある活動、また住民のみなさんや地域団体と連携を図りながら厚田の魅力を区内外に PR することを重点に、7 つの主催事業と 3 つの協力事業を展開しました。

資料にもあります通り、主催事業として地域間・世代間交流を目的とした「スポーツと食の体験」。雨天により、初めて室内での開催となりましたが、多くの方々に参加いただき賑わいを見せ、区外からの団体には厚田の味を堪能していただくなど食での地域間の交流が図られたところです。また、夏のビアガーデンでは観光案内所北側会場から総合センター駐車場に会場を移し、より多くの地元の皆さんに楽しんでいただき、カラーリング大会やミニバレーボール大会では区内外のチームが一同に会し、スポーツでの交流が図られたところです。冬のイベントであるウィンターレクフェスタでは記録的な降雪量の少なさに会場の整備など苦労したところですが、雪中バナナボートや雪の滑り台など皆さんに楽しんでいただけたかなと思っております。昼からは、道の駅関連事業のモニターツアーに協力し、モニターツアーに参加した皆さんには厚田の冬の楽しさを体感していただきました。また、ツアー・オブ・カムイや、漁協・農協青年部主催の厚田夏祭り、石狩青年会議所主催の寒中屋台村などの他団体の事業にも出店協力してきました。

平成 29 年度については、全般的には前年度ベースの事業を展開しようと考えておりますが、厚田のブランド豚である望来豚を生産しているノース・ベスト・ファームさんと連携を密にした事業展開、また新たな事

業として7月1日と2日に石狩市保健福祉部主催による厚田地区濃昼山道を会場に開催するトレイルランニング北海道育成研修会に参加する予定になっております。

今年も地域の皆様や、関係団体との連携を一層強化し、厚田にしかできない事業を展開しながら、共に楽しく元気に夢を持って取り組んでいきたいと考えておりますので、今後ともご支援・ご協力お願いします。以上、私からの報告とさせていただきます。ありがとうございました。

【佐藤会長】

どうもありがとうございます。全ての団体からの報告が終わった後に、それぞれの団体にご質問等していただくということにしたいと思います。

では次に進めさせていただきます。厚田の森支援の会やまどり 副会長 渡部さんお願いします。

【厚田の森支援の会やまどり 副会長 渡部 賢二さん】

厚田の森支援の会やまどりの副会長の渡部です。

今日は会長が所用により来れないということで、私をご報告させていただくことになりました。会長からは日頃からご支援・ご協力を頂いていることを皆さんによりしくということで、御礼を申し上げて欲しいと言っておりましたので、お伝え申し上げます。

それでは、早速資料を皆様に別紙で配られておりますけれども、やまどりの会につきましては平成20年3月に設立して現在に至っているということで、平成29年4月現在の会員数は36名となっております。僕が入会したときは88番目の入会です。現在のメンバーは延べ90人。高齢化によって引退される方もございますので、現に活動しているのは半数と言うことで、この点がこれからの課題ということが、この数字からいえるかなと思います。

目的については、厚田区の自然を愛する仲間が集って、森林事業などの各種体験を通して区内の環境保全、森林の歴史などを子孫へ伝えながら森林を守り、山作りに寄与し、山の素晴らしさを多くの人たちと共有するという、この目標に向かって毎年それらの体験をやっている状況でございます。

平成28年度の具体的な活動につきましては、生活環境保安林の厚田ふるさとの森、石狩市子ども育成会連絡協議会の植栽事業、そして石狩湾漁協の植栽事業、それからすこやかロードの草刈と、大きな4つがございます。それらを例年、ほぼ同じような形でやっております。昨年度は特に申し上げたいのは、厚田のふるさとの森の植栽事業で10月23日に行いました。会員は12名、市職員さん・担当職員さん7名、そして子ども育成会から14名の参加が得られまして、植栽をしたという実績がございます。その他の事業につきましては、この地域協議会の次第にあります、14ページに各事業の草刈や地ごしらえとか、実際の活動した人数等はここに載っておりますので、お目通しをお願いしたいと思います。

平成29年度の事業計画につきましては、平成28年度の実績を踏まえてほぼ同じ形となっております。ですが、先ほど子ども育成会の参加も得ました植栽もございます。これらを今年は多くしていきたいとか、それらを重点にしていきたいなと会長が申しておりました。それから一番先に申しました会員の減少ですね、これの課題につきましては、なかなか僕もそうですが60歳を過ぎますとなかなか草刈も容易でないということから、下草狩りにつきましては専門の業者さん等にも参加をしていただいて、会員については環境保護とか、子どもたちに対する自然を教えていくということを重点的にやっていきたいなということを、この間の総会でありました。

初めてのこういう場でございますので、言葉足らずではありましたが、以上でございます。ありがとうございました。

【佐藤会長】

どうもありがとうございました。

それでは、NPO法人あつたライフサポートの会の高橋悦子さんお願いします。

【 NPO 法人あつたライフサポートの会 高橋悦子さん 】

うまく話せないかもしれませんが、よろしくお願いいたします。NPO 法人あつたライフサポートの会 高橋です。

ライフサポートの会は、合併直後の平成 18 年、当時第 1 期の地域協議会の中で『地域の課題は何だろう』をテーマに協議した際に、「交通」「地域の足の確保」が地域課題の一つではないか、との意見から、地域協議会メンバー5人で「地域交通分科会」を立上げ、検討をスタートしたことが始まりです。当時「地域交通の先進地」であった滝川市内の滝の川東町内会へ視察・研修に出向き、また、地域のニーズを確認すべく、当時 65 才以上の 450 世帯へ、聞き取り調査を「3回」実施しながら、「地域の足の確保」の実現に向け取り組んで参りました。この間、聞き取り調査の結果から、スクールバスへ「一般住民が乗車できる」取り組みを実現させるなどの動きを進めてきましたが、スクールバスへの混乗だけでは、すべての地域ニーズには答えられないと判断し、さらなるニーズに答えるべく方策を協議し、「運輸支局」へ相談に出向き「過疎地有償運送事業」の実現という「目標」にたどり着き平成 21 年度に国の許可を取得し、翌年 4 月より「過疎地有償運送事業」を開始しております。

現在の形に至るまでには、「法人格の取得」や国への申請など様々なハードルをクリアするため、21 年度においては「1年間」無償による試験運行を行い、その実績を踏まえ、有償運送の仕組みづくりと、月に 3 回は会議を実施し地域の足の確保・実現のために、メンバー全員が「本気」で地域交通の将来を見据え、取り組んで来たことが思い出され、この苦労を経て、現在の「日常生活支援活動」となっております。

当会は、地域の人達でお互いに支え合い、いつまでも・いくつになっても安心して住み続けることができるシステムの構築を図り、日常生活の支援から、住民の健康増進、福祉の向上に寄与する事を目的として活動を展開しております。当会は、会員制で会員となるためには、年会費として千円が必要となります。

平成 28 年度の利用者会員は「44 名」、サポートをするサポーター会員は「21 名」となっております。また、サポート状況の確認・検証を行い、事故等を未然に防ぐため常に改善・改革を意識した話し合いの場として、毎月 1 回会議を行っております。

次に、平成 28 年度の実績ですが、移送事業については利用者数 675 名で、前年度の 1.3 倍の 157 名増加となり、無償運行の平成 21 年度と本格運行初年度にあたる平成 22 年度に次ぐ利用者数の多い年となりました。

また、除雪事業については、今年度は少雪であったことから、2 件の依頼に留まりましたが、除雪については、民間事業者での実施や、市や社協としても高齢者の除雪事業に取り組んでいることから、当会は、窓が割れそうな場所や無落雪の車庫や物置など、安全が確保できる屋根の雪降ろしを「人力」で行う作業を基本に、他の事業者と「棲み分け」をした中で、事業に取り組んでいます。

28 年度の事業収入は、記載のとおり移送事業が 114,800 円、除雪事業は 9,300 円となっており、本年度の全体事業予算は「50 万」となっております。

収入としては、移送・除雪の事業収入のほか、利用者やサポーター会員の年会費、ふるさとあきあじ祭りでの「出店収益」が特に大きなものとなっております。また、法人ということで、法人税の均等割りが毎年かかっており、道・市あわせて 8 万円と大きな支出もありますが、有償事業ということで、サポートする側もしっかりお金を頂いている責任の意識を強く持ちながら、安全・安心な運営・運行・取り組みに心がけ、活動を展開しております。

次に 29 年度の活動ですが、移送事業については、すでにスタートしており、4 月は前年同様の 55 名の利用者数となっております。また、2 年ほど前より地域振興団体との連携を意識し、地域でのイベントにあわせた無償・実費サポートとして、ふるさとあきあじ祭り会場までの送迎を実施しており、さらに、今年度新たに「ゆめ倶楽部」との連携事業として、8 月 4 日金曜日、厚田総合センター駐車場で開催される「夏のビアガーデン」の送迎にも取り組み、より多くの地域の方々がイベントに参加していただけるよう「地域振興団体の支援」にも取り組んで行こうと考えております。また、除雪事業についてもこれまで同様、事業者等との棲み分けをし

た中で、引き続きサポート事業を進めて参ります。

最後に課題ですが、当会も立上げから10数年が経過し、当会のサポーターも10年後は「サポーターから利用者になる」ことを想い描いておりましたが、どの団体・組織も同じ悩みを抱えていることと思いますが、スタッフの「高齢化」と「後継者不足」が大きな課題となっております。未だにサポーターから利用者へと、変わったメンバーはいないのが現状ですが、32年度末を目処に新たな地域交通への移行も視野におきながら、引き続き地域で支え合い、「大好きな厚田を離れることなく」いつまでも・いくつになっても住み慣れた厚田の地で生活ができ、「安心・安全な日常生活が送れるよう」日々支援活動に取り組んで参りますので、今後とも皆様のご理解とご支援並びにご協力をよろしくお願いし、ライフサポートの会の報告を終わります。ありがとうございます。

【佐藤会長】

どうもありがとうございます。それでは資料室サポートの会柴田肇さんお願いします。

【資料室サポートの会 柴田 肇さん】

それでは資料室サポートの会を代表してこれまでの経過をお話させていただきます。

皆さんもご存知の通り、村の時代から厚田公園に厚田資料室がありましたが、色んな資料が雑然と展示していたという状況でしたので、何とかこれを整理整頓しながら一人でも多くの人に来ていただくということで話し合いを重ね、資料室サポートの会としては平成21年2月に当時18名で正式にスタートいたしました。

なにぶん、こういう歴史的なことですので、それぞれ調べなければいけないことや、相当予備知識がないと中々スムーズにいかないものですから、教育委員会関係の方や学校の教員やOBの方々などに協力頂きながら少しずつ充実をさせて整理もして参りました。その中で他の月形の博物館、それから浦臼の資料館等もみんなで見学等も行って参りました。

資料室を充実させていく中で、年間3千名の入館者を目指し、年によっては目標を達成できたこともあった経過がございまして、そうしていく中で道の駅の話が出てきて、道の駅を新築するにあたって、資料室サポートの会は一時それまでの間、資料の整理・保管も含めて凍結状態になったものですから、今現在は活動というのは止まっております。

なにぶん、メンバーの方々も非常に高齢化しているものですから、だんだん記憶が定かでなくなってきたり色々あるのですが、今後、道の駅が新たに出来ていく中でどのような形で貢献できるかと、こんなことに焦点をあてながら、なんらかの形でお役に立っていければと、そんな思いであります。市役所の方としましては、教育委員会の所管になるというお話でしたので、教育委員会の方とも連携をとりながら、なんらかの形でバックアップしていきたいと思っております。

ちなみに、交流事業として、輪島市と交流に参加したことがあるのですが、向こうに行きましたら、やはりボランティアで相当数の方が北前船を中心とした北海道との交流や、農業遺産の棚田の問題とか、とても親切にガイドをしていただきましたので、これらも参考にしながら新しい厚田で皆さんに喜んでいただけるようなそんなことを模索しているところであります。以上でございます。

【佐藤会長】

どうもありがとうございました。

それでは次のページの6ページに地域教育分科会というのがございます。今ご報告なさった団体及びこれからご報告される団体はそれぞれ独立して活動しているんです。だけどこの地域教育分科会だけは、この地域協議会の中の一つのセクションと言うか、分科会を構成してやっておりました。これは6ページにも書いてあるのですが、地域の子どものための教育の向上に向けて地域・保護者・学校が一体となった地域教育を目指すのが目的なのです。

この目的の裏側にはこのようなことがあります。例えば過疎化・少子化してきて、学校がだんだん小さくなって参りますね。子どもの数が少なくなってきましたね。そうすると、複式になります。1年生と2年生と同じ教室でというように、学年を跨った複式授業というのが増えてきます。そうすると、先生の数が減られてしまいます。特に中学校になると専門の教科が複式授業によって先生の数が減ってという、地域の子どもたちにとっては大変デメリットになるようなことになるんですね。それで、地域の人たちが出来ることだったら、その地域教育の中にバックアップできる、あるいは学校に協力できる人たちが厚田にはたくさんいるという話を聞きましたので、それではですね、ここで文科省が一生懸命旗振りをして盛んに全国規模でお金を落としているコミュニティスクールというのがあるんですね。学校運営協議会、これはここに書いてるように、地域の人々と保護者、それから学校の先生方と一体となって学校運営をしていく。そのために今までの文科省の規制がずいぶんゆるくなる場面もあるんですね。教育課程の問題ですけども。そういうことで、厚田区の教育の特色を一つ出そうということで、分科会をしました。

次の年に、その分科会のメンバーと一緒に勉強会をしながら、厚田区に合ったコミュニティスクールがどういった姿が良いかという、報告書も一応提出しております。問題はそれを認可すると言いますか、文科省に申請するのは石狩市教育委員会ですから厚田から盛んにラブコールをしても、なかなか北海道でもコミュニティスクールをしているところが少ないものですから、なかなか進まないのですね。そうしているうちに統合問題が出てきました。厚田区全体で学校統合しようという話が石狩市の教育委員会から出ましたので、地域教育分科会は一旦休眠することになりました。この団体がこれからの厚田に学校統合の圧力団体になってはまずいということで、平成26年から休眠状態に入っております。

休眠の間に、学校が統合されて平成32年に、現在の厚田中学校の所に新しい学校が出来ることになりました。これが平成22年に立ち上げた分科会の目的でありました、地域と保護者と学校が一体となったコミュニティスクールが平成32年から実施されるということになりました。ですから、発足してからちょうど10年になります。そう考えますとこの地域協議会も今年で12年目なんですけれども、やっぱり何かしようとしても10年と言う長いスパンで考えていかなければいけない、ということはこのことからよく理解出来ました。この地域教育分科会の委員の皆さんたちが理想にしていた、あるいは理想に近い形の学校が平成32年に出来るだろうと思っております。

文科省は小中一貫校を推しているんですね。厚田の場合は更にこれに幼稚園から中学校までの12年間を全部通した教育課程でやっていくということで全国でも非常に珍しい、果たしてそういうことが出来るのかという人たちもいますが、それを平成32年から行っていくということなんですね。ですから将来の子どもたちのためにですね、地域一体となった地域の教育力が高まれば、将来的に地域が豊かになるということを目指して活動して参りましたが、今度は実際に委員の人たち含めてコミュニティスクール、学校運営協議会に向けて、また、活動を開始するということになるのではないかなと思いますので、これからまたよろしくお願ひしたいと思います。

それでは次に厚田アクアレール実行委員会、築田委員よりお願いいたします。

【厚田アクアレール実行委員会 築田 敏彦さん】

こんばんは。厚田アクアレールの副実行委員長をやっております、築田でございます。大黒実行委員長が先ほど高田課長からも話があったように、急に逝去されたということで、私もびっくりして今日話を聞いたんですけれども、特に資料という物は私の方では用意しておりませんでしたので、配付資料を基にやらせていただきますのでよろしくお願いいたします。

アクアレールは平成22年12月に実行委員会を立ち上げまして、昨年の第3回水彩画展までこぎつけることができました。厚田の素晴らしさを水彩画展を通してPRして、優れた芸術や文化に触れることで豊かな人間像を育み、大きな地域づくりを目指していこうということで発足しました。

なぜ水彩画にこだわっているかと言いますと、学校の授業で最初に絵を描くのが水彩画なんです。なので、

皆さんに馴染みやすいのではないかとということで、あえて水彩画にこだわってやらせてもらいました。

昨年、皆さんの協力を得まして第3回展を開催することが出来たのですが、公募期間が1年近くありましてその間に皆さんに絵を描いていただこうということで、2年に1回の開催になります。今回の第3回の公募は、平成27年7月から平成28年5月まで公募しまして143点の応募がありました。資料の16ページを見ていただきたいのですが、第1回の時が157点、第2回が106点、第3回が143点という応募でした。第1回が157点でしたので、第2回は200点を超そうということで皆で知恵を絞りながら頑張ったのですが、結果としてここで収まった形となります。道内の方が97名、道外が16名と言うことで、第3回の大賞を取った方は京都府の方で、第2回の優秀賞は輪島の方ということで、道外の方も結構応募していただいております。

PRの方法としては、ポスターを貼ったり、あるいは絵画教室に宣伝をさせていただいたりしており、石狩市内に沢山のポスターを貼らせていただいておりますが、ポスターだけではなかなか応募してみようかなと言う気にはならないのかなというふうに思います。

作品の搬入を6月11日から12日の2日間スポーツセンターでやりまして、審査会を6月18日にやりました。審査委員の方には、大黒実行委員長も審査委員になっておりますが、その他に3名の方にも審査委員になって頂いています。ボランティアスタッフとして区民の方や地元中学生にこの審査会をお手伝いしていただきました。

審査会の内容ですけれども、全作品を一回5点ずつ一通り見るんですね。それから1回目の審査、2回目の審査と5点ずつ交代で絵を見ていくものですから、たくさんのスタッフが必要になるということで、中学生に応援をして頂きました。子どもたちも実際に1メートルほどある大きな絵を間近で見る機会が無いということで、目をランランと輝かせながら手伝ってくれたのが、大変嬉しく思っているところです。展覧会の会場はスポーツセンターでやったわけですが、やまどり、それからゆめ倶楽部の皆さんの協力を得まして会場設営をしました。

平成28年7月23日に表彰式とパーティを行いました。このパーティには64名の方が出席をしていただきまして、今年の春、亡くなりましたが審査委員長の宮川さん、岩見沢の方でしたが、この方に時間をとっていただきまして、全部の作品を講評して頂いたところです。パーティにつきましては、厚田こだわり隊の皆さんにご協力いただきまして、地元の食材を使ったものを出していただきまして、大変喜んで食べていただきました。第1回、第2回では無かったのですが、第3回の時に大学生が何人も応募してくれたんですね。その中で1名優秀賞を受賞した方がいるのですが、厚田こだわり隊に作って頂いた料理を大変喜んで食べていたのが印象に残っております。

展覧会は7月24日から8月7日までの期間でやりまして、入場者数が792名（内区民が130名）ということで、これも資料の最後のほうを見ていただきたいのですが、第1回のときに1,233名、第2回919名、第3回が792名と、だんだん入場者数が減ってきているのも現実ですので、なんとか工夫して、せっかくの機会ですので、多くの人に見てもらいたいと考えているところです。

第2回の終了後、第3回に向けて全体的な会議は11回になっておりますが、個々の会議はすごく多くて、大変なくらい、「またアクアレールの会議かい」というくらい会議がありました。

今、第3回が終わりまして、第4回に向けてまた今年の秋から公募する予定なのですが、今までは30号という大きな絵にばかり目をとられていたので、もっと小さな・・・8号くらいかな？普通の大きなスケッチブックが8号くらいということなので、8号くらいの小さな絵の部門を一つ作ろうかなと考えております。それから、もう一つはこの厚田賞というのですかね、この厚田区民の皆さんが審査員になっていただいてその中で一番気に入った絵を“厚田賞”として取りあげていこうかと考えております。

せっかくなので、厚田の中で水彩画教室をやろうということで、我々実行委員も大黒先生の下で1度絵を勉強してみました。出来れば厚田の人たちにも絵を描いてもらおうと計画してはいたのですが、今ちょっと挫折しそうなのかなと残念なところもありますが、多くの人たちにこの絵に親しんでもらえる機会をもっと作っていこうと思っております。

そういうことで、第4回に向け今年の夏から来年の春にかけて公募しまして、来年の夏、また第4回の水彩画展を開催したいと思いますので、皆さんまたご協力よろしくお願いいたします。

【佐藤会長】

はい、ありがとうございました。それでは次に8ページに移りまして、厚田こだわり隊河合隊長お願いします。

【厚田こだわり隊 隊長 河合 徳秋さん】

厚田こだわり隊、隊長の河合です。どうぞよろしくお願いいたします。

日頃より皆様には、当隊の活動に対してのご理解、ご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りして、お礼申し上げます。また、当隊が取り組む地域自治区振興事業については、平成26年度からの3ヶ年で、4事業、総額367万円もの基金を活用させていただいたこと、重ねてお礼申し上げます。それでは、厚田こだわり隊の平成28年度の活動報告をいたします。

平成28年度の活動内容は、まず、厚田の農産物や特産品を販売する直売事業ですが、平成26年度から販売班が自ら、注文、仕入れをする「本格実施」をしています。生産者は団体も含め31名、出荷品目は50品目、実施期間は7月から9月の土日の23日間、実施しました。主な販売品目として、厚田産とうきびやメロンなどの農産物、JA北いしかり女性部のしそジュースなどの特産品、ふれあいきのこ村のしいたけ、商工会女性部のだし昆布、そのほか、生産者とのつながりをさらに広げるため、浜益のさくらんぼやいちごなども販売いたしました。販売スタッフは、販売班を中心に、延べ126名、事業収入は、売上目標である300万を超え、3,551,768円でした。経費ですが、野菜などの仕入額2,528,525円、人件費、光熱水費など887,231円を支出し、利益は157,180円となりました。売上が伸びた原因としましては、区内にあるゴルフ場より、コンペに使用する景品に、地元の食材を使いたいとのことで、主にお米を景品に使っていただきました。なんと、年間でお米1tの注文を受けたところです。

続きまして、各種イベントへの参加です。各所にて厚田のPRを行いました。ご覧いただいている資料のほか、詳細を記した別資料もご用意しております。たくさんございますので、割愛いたしますが、厚田区内、石狩市内のイベントのほか、市外のイベントでもPRしたほか、厚田での映画ロケの炊き出しも行い、大泉洋さんに厚田の特産品を味わっていただきました。もしかすると、「探偵はBARにいる3」の映画ですが、エンドロールに厚田こだわり隊のロゴが流れるかもしれませんので、ぜひ、映画館に足を運んでいただき、確認していただければと思っております。

PR事業として、情報発信基地「あった」にて、観光案内を行ったほか、フェイスブックやブログで厚田のイベントなどのPRを行いました。情報発信基地の来客者数は387名、フェイスブックの投稿数は123件、閲覧数は116,605件、ブログでの投稿数は51件、閲覧数は130,960件ということで、知名度が徐々にあがっており、数字も伸びております。

また、直売所や観光案内所、朝市など6か所をまわるスタンプラリーを行いました。応募数は27通で、そのうち6名の方に厚田のお米や秋サケのプレゼントをいたしました。

研究開発事業では、厚田のぶたまんを開発、商品化しました。開発当初は1ロット、約1,000個の販売を目標としてましたが、おかげさまで好評をいただきまして、平成28年度の製造個数は10,440個となりました。また、2個入りの冷凍ぶたまんを、札幌市内では、きたキッチンと札幌駅の北海道どさんこプラザ、石狩市内ではとれのさと、厚田区内では地産ショップあべ、宮崎商店に置いていただき、販売しました。さらに、厚田のぶたまんを広くPRしようと、試食販売を札幌市内にて行いました。

そのほか、厚田こだわり隊の新商品として、望来豚をふんだんに使用した厚田のフランクフルトを開発し、今年度、厚田区内では戸田記念墓地公園で、札幌市内では円山動物園で、お披露目いたしました。

各種会議は資料のとおりとなっております。

さて、厚田こだわり隊は、この春から、自分たちの活動は、自分たちで頑張っていこうということにいたしました。具体的には、市役所から隊へ、事務局機能の移管、さらに、隊員全員が全体を見渡せるよう、組織形態と事業のスリム化を図ります。とはいえ、持ち味をいかして厚田らしくPRしていくという目的は変わりません。隊員一人一人が、「気軽に」、「楽しく」、「無理なく」活動していくことが、厚田こだわり隊を長く継続していく基盤になります。その基盤は、厚田が目標として掲げている「近説遠来」に通じていきます。隊員が楽しく活動していれば、地域が元気になり、おのずと外から人が集まり、さらにこだわり隊も活気づいていくと考えています。今後も、なにかと皆様にはご協力いただくことがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【佐藤会長】

はい、ありがとうございました。では次 13 ページです。地域賑わい呼びおこし隊の津川隊長よろしく願いいたします。

【地域賑わい呼びおこし隊 隊長 津川 禎祥さん】

地域賑わい呼びおこし隊の代表を勤めております津川でございます。よろしくお願いいたします。

この呼びおこし隊につきましては、港朝市にたくさんのお客様が新鮮な魚介類を求めて朝早くから買い求めに来るわけなのですが、そのお客様から朝早く食事ができる場所はないのか、ということもしばしば聞きますので、そういうこともありましてここでしか味わえない新鮮な魚が食べられる所があれば、朝市へ来る楽しさが増えるのではないかとということで、取り組んだわけですが、この朝市食堂の時間帯につきましては近隣に食堂がありますので、その食堂との時間帯がバッティングしないように朝6時から9時までと時間帯で限定した食事を提供してみたいと思って立ち上げたわけでございます。

昨年の5月12日に立ち上げまして、この資料にもありますけれども、5月15日、6月5日、7月7日、7月23日、8月11日ということで、5回にわたって行いましたけれども、やはりこの中でも魚感謝DAYということで5月と6月に2回にわたって併せて行ったのですが、やはりこの日は魚も2割引きということもありまして、お客様もたくさん見えられたこともあり、販売食数も200食限定としてやったのですが198食ということで非常に提供数も増えております。7月7日の平日も試験的にやってみようかということでやってみたのですが、やはり厳しいものがございました。

5回の合計が721食ということで、ワンコインでやりましょうということで始めたのですが、なんせ初めての経験でございまして、その値段でやったことがお客様は喜んでいただけたのですが、我々の経営状態が非常に厳しい状態がありました。その中で皆さんも安い日当の中で何とか手伝ってくれまして、スタッフの中で皆さんが色々鍋や食器類、揚げ物類につきましては漁師の方からフライヤーをお借りいたしまして昨年は何とか5回をこなすことができたなあと思っております。

それで今年は5月21日の日曜日にすでに実施しております。このときは161食を提供することができました。それから6月24日(土)、7月22日(土)、あと2回予定しております。

昨年は500円で提供しておりますが、やはり食材が非常に値上がりもしておりますので、500円では非常に厳しいということもあり、今年は700円で提供することにいたしました。そして色んな方からもアンケートをもらいましたが、妥当ではないかという方も非常に多かったんですね。去年が500円でしたけれども、これだけのメニューであれば700円でも妥当だなという評価を頂いております。

こうした朝市食堂を通じて港朝市や厚田のPRができて、そして交流人口の増加につながって、厚田区の地域活性化を図ることにできればなと思ひまして、今年も頑張ってみようかなと思っております。以上でございます。

【佐藤会長】

ありがとうございました。地域振興団体8つ全て報告していただきました。

この地域振興団体はですね、最初は地域協議会で何をすればいいのか試行錯誤した中から生まれてきました。これらの団体はですね、厚田区全体にいきわたる、皆さんに知れ渡るために一つのハード的な拠点を作りたいということで、多目的施設の検討に入りました。それが実は来年の春にオープンする道の駅になったというわけですね。ですからそういう意味で、地域の活性化もこのように多くの人々のボランティア・手弁当、そういうので成り立っております。もっとお祭りも含めて地域の多くの人たちに参加してもらえれば、もっと賑わい、賑やかな厚田がまた生まれてくるのではないかと考えております。そういう意味から次はこういう団体と、それぞれの各地域の人々を結びつけるそういう強い働き、あるいはそういう機能を持っている自治会というものがありますので、この辺りを密接にこれから繋いでいく必要があるだろうということで、今日は自治会から先ほどご紹介いたしました、5連の会長さん及び副会長さんに出向いていただきます。今回は5連の副会長さんですね。それでは、厚田区自治連合会副会長 佐藤様からご報告をよろしく願いいたします。

【厚田区自治連合会副会長 佐藤 昭夫さん】

ちょっと紛らわしいですが、私は厚田連合会の会長です。その上に厚田区連合会というものがございます。厚田は厚田の中だけ、発足とか望来、聚富、古潭、5団体があります。そういうことで、5連という呼び方が普通になってきているのです。今日は厚田区自治連合会の内容について、少しだけお話ししたいと思います。佐藤と申します。よろしく願いいたします。本来であれば副会長ではなく、会長の中西会長が出席してご説明申し上げるところではありますが、市連協の総会がありまして、そちらの方に出席しておりますので、代わりまして慣れない私ですが説明させていただきます。

厚田区自治連合会は先ほど言いましたように5連の会ということでございます。厚田区の町内会全体のとりまとめる上部組織となっております。役員につきましては、各地区の1名ずつが理事となって5名おりますので、会長、副会長、理事3名。その他に会長さんから4名以内であれば推薦してもらえればよいということで、各地区から10名参加されております。そのほか役員の他に、会計監査もおこななければいけないということで、2名、役員の名前で2名おいてありますので、役員は7名、会長推薦が10名、全部で17名で事業をおこなっております。

その事業ですけれども、平成28年を簡単にご説明申し上げます。主催や共催がございますが、一応項目だけ申し上げます。厚田区スポーツと食の体験、北の海厚田アクアレール展覧会、厚田区カローリング大会、厚田区ミニバレーボール大会、年を越しまして厚田区民ウィンターレクフェスタということを実施しております。この他に毎年厚田区の自治懇話会も実施されております。年が明けますと、市連協懇談会というのもございまして、それに参加してございます。

そして今年度の29年度の活動予定でございますけれども、先ほど申し上げた項目を実施する予定でございまして。それ以外の内容がありますので、4点ほどご紹介いたします。

1点目は、町内会防犯灯のLED化。これはだいぶ進んでおりまして、あともう少しというところになってきています。なんせLEDにすると修理代は削減、電気代も削減となるので、早く全戸達成したいと思っております。

2点目は、津波浸水想定が変わりまして、これまでの地区防災計画を見直し、あるいは避難経路・非難場所等の再確認を実施するということであります。

3点目は、将来を見据えた地域交通のあり方を含め、地域で支えあうシステムの構築、厚田カンパニー構想と呼んでおります。カンパニーというとすぐに“会社”ということを連想しますが、一応“仲間”とか“友達”という意味もございまして。

4点目は、厚田村は開村150年を迎えます。平成30年ですけども、それで準備委員会を立ち上げまして、記念式等のあり方を検討いたしまして、実施に向けた予算措置をとることになっております。

最後になりますが、課題として人口減少や高齢化が進みまして、私どもの役員も何をやっても同じ顔ぶれ

になるんですね。そうしますと人間ですから馴れ合いといいますか、親しみすぎて、物事があまり突出しないんですね。新しい意見が出てこない。そういう現状もございますので、これからの課題といたしまして、なるべくでしたら、新しい人を加入させまして、新しい厚田村を考えていこうという場にしたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

【佐藤会長】

はい、ありがとうございました。これで地域振興団体8つ、自治会連合を代表いたしまして佐藤さんから報告いただきました。時間がちょうど報告を聞いているだけで8時になってしまいました。残す時間そんなにたくさんございませんが、今までの振興団体の報告、自治会からの報告を含めて、皆さんからのご質問受けたいと、あるいはご意見でもよろしいです。どなたからでもよろしいので、ございませんでしょうか？

【古潭自治区 会長 長 良幸さん】

特別なければ、賑やかな嬉しいニュースということで、実は古潭地区におきましては、商店もいよいよ閉めまして、秋田商店さんが閉めたので、商店がないということで、限界集落に突入いたしました。ところが、幸いにちょっと人口が増えましたので、副会長のほうから報告させますので、宜しくお願いいたします。

【古潭自治区 副会長 高橋登喜男さん】

今までの42軒から44軒、2軒増えました。そして42軒のうち敬老の人75歳以上が32名います。自治会としては弁当とタオルとジュースを持って、会長と2人で回るんです。それが大変なんです。

【佐藤会長】

古潭独自で？

【古潭自治区 会長 長 良幸さん】

古潭自治会で。古潭独自で予算を組んでやっております。

【佐藤会長】

と、いう古潭からの発言でしたけれども、古潭、なんと言っても厚田区発祥の地ですから。

他の委員の皆様も含めてありませんか。

それではこういう報告だけではなくですね、各団体、その自治会、地域協議会の委員の皆さんを含めてですね、地域の活性化に向けてこういう話し合いを持ちたいとおもっておりますので、そういう時はまたご協力のほどよろしくお願いいたします。

4. 報告事項

【佐藤会長】

では報告事項に移りたいと思います。第7期地域協議会委員選考について、今田主査からお願いします。

第7期地域協議会の委員選考について

【(厚)地域振興課 今田主査】

資料はないのですが、口頭でご報告させていただきたいと思います。この6期地域協議会の委員の皆様の任期が、平成27年10月から今年9月いっぱいまでとなっております。ですので、そろそろ次期7期の地域協議会の委員の選考に入っていかなければいけない時期にきていまして、実は昨日、5月24日に第7期厚田区地域協議会委員選考委員会というのを、これは支所の内部の会議なんですけれども、まず開いております。色んな意見出ております。

これから公募の委員さんの募集も広報いしかりなどで行っていかなければならないということもありま

すけれども、次回6月の地域協議会の中で詳細をご報告させていただきたいと思います。今日のご報告は以上でございます。

【佐藤会長】

ありがとうございました。それでは、その他の地域づくりキックオフフォーラムの案内、これはチラシというか、資料が一部あります。相原主幹お願いします。

5. その他

地域づくりキックオフフォーラムについて

【(厚)市民福祉課 相原主幹】

皆様お疲れ様でございます。最後になりましたけれども、チラシが皆様のお手元に、地域づくりキックオフフォーラムというのがございまして、このご案内をさせていただきます。

このチラシは、来週、回覧でも配布される予定で、先日、民生委員児童委員協議会の中でもご紹介させて頂いております。これは実は思い返せば平成12年、西暦2000年ですが介護保険法がいよいよ動き始めました。あれから17年が実は経っております。僕も導入に随分思い出があるので、懐かしいなと思って、もう17年も経っているんだなあと思いますが、これまで何回か介護保険法は改正をされてきています。

その介護保険法の改正の一つとして最近では“介護予防”というところにすごく重点がおかれています。じゃあ介護予防をどうやってやっていくかというところで、国としては介護保険という制度だけではなくて地域で皆さんが自分たちの生活とか回りの人を支えあう体制作りが重要だということを考えて、色々なことが進められています。

石狩市としても生活支援コーディネーターというのを配置して地域資源のネットワーク化や、通い場作りなどといったことを考えて進めておりまして、厚田区でも先月の地域協議会でもちょっと挨拶しておりましたが、今日は来れなかったのですが小池さんという新しく職員が入って、この地域の生活支援コーディネーターの業務をやっております。これから色々な場面で、自治会の方々含めて顔を出していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、この地域の支え合うっていうのはどういうことかということで、実は昨年6月にも同じようにフォーラムがあったのですが、今年も6月18日に開催されますということで、皆様にご案内をしたいと思っております。これは、バスの送迎というの実は考えておりますので、積極的なご参加をお願いしたいと思います。すし、浜益からバスが出ますので、もしご利用の際は保健センターへ電話いただければと思います。ここに書いてある地域の住民主体の通い場の作りについての説明というかフォーラムということですので、是非とも皆様にもご興味を持っていただければと思いますのでご参加をご検討いただければと思いますので、よろしくお願い致します。以上です。

【佐藤会長】

ありがとうございました。6月18日でございます。お時間のある人は是非ご参加いただければと思います。それではその他あと2点ほどあります。高田課長お願いします。

【(厚)地域振興課 高田課長】

次第にはちょっと書いてないのですが、私のほうから2点ほど報告させていただきます。

まず1点目ですが、本年輪島と石狩市友好都市を結びまして5年目となりまして、5年目の記念事業といたしまして、輪島と石狩市の交流事業を行うこととなっております。この6月3日、4日に、輪島市で開催されます輪島市民祭りという輪島で一番大きいお祭りがあるのですが、そこに石狩市から市長を含む総勢17名が市民祭りに参加するということになってございます。この市民祭りに参加する予定となっております17名の中には厚田の団体の方が4名出席するという事で門前との交流を推進する会の方1名と、漁協女性部の方2名と、厚田くんせいの平賀さんということで4名の方が輪島市民祭りに参加いたしまして、一応輪島市民祭りで出店をするということで、ホタテとか漁協女性部の昆布、平賀さんの燻製、こだわり隊のフランクフルトを持って行って、PRしてくるという運びとなっております。また、8月27日のまるごとフェスタには、輪島から一行が石狩市のほうに来るという運びとなっております。

それから2点目、先ほどゆめ倶楽部の河合会長からもお話があったのですが、6月25日スポーツと食の体験という事業が、このみなくるの野外広場で開催されます。今年は例年の事業メニューに加えまして、望来豚を製造してるノースベストファームから、日ごろお世話になっている地域の方々に還元をしたいということで、この事業に協賛をして望来豚を提供していただけるということになっております。通常、ワンコ

イン 500 円でこの事業に参加していただいているのですが、今回は望来豚をご提供いただけるということで、今回は 500 円で倍以上の美味しいものがたくさん食べられるということです、是非委員の皆さん、団体の皆さん、地域の方々に声をかけて頂いて、お集まりいただきたいなと思っております。以上です。

6. 次回会議などの日程について

平成 29 年 6 月 28 日 厚田保健センター

7. 閉会

平成 29 年 6 月 28 日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会長 佐藤 勝彦